

がんばろうや!!



も く じ

- 2・3 >>> ウッドワン美術館での展覧会について
- 4 >>> いつつ屋根の下・こねこね
- 5 >>> 研修報告・きゅうしょく
- 6 >>> ニューフェイス・入職式
- 7 >>> がんばろうや100号に寄せて
- 7 >>> もみじの文化財・行事予定
- 8 >>> わたしの大切にしたいもの・寄付

発行／  社会福祉法人もみじ福祉会
MOMIJI

第一・第二もみじ作業所(生介) 第三もみじ作業所(就継B)
福祉ホーム 夢トピア/ハッピーホーム
グループホーム たんぽぽ/夢トピア/ドリームハウス/
ハッピーホーム/きらきら
もみじヘルパーステーション 夢トピア
障害者生活支援センター めーぷる
放課後対策事業 のびのび・わくわく

〒730-0823 広島市中区吉島西2-1-24
TEL:082-243-0331 FAX:082-243-0497
HP:fukushi-momiji.or.jp

もみじ福祉会の目指すもの(骨子)

私たちは、障害者も含めた地域で生活するすべての人たちが、文化的で平和な環境の下、自らの心と身体、そして人生の主人公として暮らせるための総合的な権利保障を目指し、以下の事に取り組みます。

1. 仲間(利用者)の生きる力の充実と生活の質の向上を目指します。
2. 地域の生活と福祉の向上への貢献を目指します。
3. 事業の民主的な運営と地域の諸団体との協力・共同を大切にします。
4. これらの実践の要となる、職員の、障害や発達障害、福祉や障害者運動についての専門性の向上につとめます。

「わたしのアート」をつくることは生きること」

もみじ福祉会の機関紙は今号で記念すべき100号に到達！

カラー化した記念号となる今回の特集は先日ウッドワン美術館にて行われた「わたしのアート」をつくることは生きること」について。

この展覧会は広島県内の障がいのある方のバリエーションに富んだ個性あふれる作品を展示したもの。こちらの展示に「もみじ作業所」から4名の仲間（利用者）の作品が出品されました。

会期は終了しましたが、盛況に終わったという今回の展覧会について、今回の展示を担当されたウッドワン美術館学芸員の松浦さんに寄稿いただきましたのでご紹介したいと思います。



展覧会

「わたしのアート」をつくることは生きること」に寄せて

（公財）ウッドワン美術館 松浦瞳



ウッドワン美術館
学芸員 松浦さん

（株）ウッドワンという企業を母体とした、障がいがある方の表現活動を支援する新しい事業である one's art プロジェクトが立ち上がったのは2022年のことです。以降、プロジェクトが雇用する作家3名の展覧会を地道に重ねてきましたが、2025年の3月に one's art 主催初のグループ展「わたしのアート」をつくることは生きること」を開催することになり、当館において広島県内で表現活動されている総勢45組の方の作品約150点をお借りし、紹介する機会を得ました。

KONKONの佐々木さんに、第二もみじ作業所の板村さんと職員の方の吉田さんを紹介いただき、施設を訪れたのは昨年10月のことでした。まずはどんな風に絵を描いているかまず見てほしいという



良さそうな本田さん。楕円状に丸めたご自分の作品を修正するようにこねている池田さん。板村さんは威厳を湛えたまなざしで展示室の作品を見渡しておられました。この日来られなかった上川さんは、後日作品のモデルになったご家族と一緒に来館され、作品がめくれた部分を丁寧に直されました。

吉田さんの希望から、作業所での制作風景を見学させていただきました。時間が来ると長身の板村さんが入室され、職員の方と共に、壁にピンで留めた1枚の大きなターポリンの前に立ち、絵の具をひいた筆を画面に勢よく走らせ始めました。まるで神聖な場所に立ち会おうようなそんな気持ちで拝見させていただきました。

印象に残ったのは、作品作家選定の過程で、施設内にいらつしやる職員さんたちにおすめの作家さんはいいますか？とやや無茶な質問をすると、逆に待つてましたといわんばかりに仲間たちの紹介が始まることでした。回答する職員さんごとに推しメンバーも見事にばらばらであることが、日常的な仲間への関心の高さや目配りの細やかさを感じました。出品作家となった本田さん、池田さん、上川さんも職員の方から推薦してもらったことがきっかけで共に候補となり一緒に選ばせていただきました。

展覧会場に出品者の板村さん、本田さん、池田さんにお越しいただいた日のことは忘れられません。

日々の営みの中から自然と生み出される個性豊かな表現は、時に切実で街でしるや嘘がなく、人が生きる力そのもののように感じることがあります。この展覧会が、人がその人らしくあることがそのまま肯定されることの素晴らしさを実感できる場となったことは間違いありません。展覧会は予想人数を上回る1,000人超の来場数を記録し好評のうちに閉幕しました。会期中に複数回来館された方も少なくありません。アンケートの回答率が高いことが、来館者の方たちの感動や関心の高さを物語っていました。

最後に、お名前をご紹介しきれない位多くの方に、展覧会にご協力いただきました。皆様にご心より感謝申し上げます。



観覧した出品者も含め多くの方の目に触れた今回の展覧会。それぞれの見方で、愉しみ方で、展示を堪能してもらったのでは、と想像されます。

株式会社ウッドワン（本社：広島県廿日市市、社長：中本祐昌）は、障がいのある方の雇用促進と活躍の場の提供を目指し、創作活動を応援する one's art プロジェクトを推進している、とのこと。障がいのある方ならではの個性あふれる作品を楽しむ、という目的以外にも、障がいのある方と社会をつなげる取り組みを考えるきっかけを作るとい

非常に意義深い展覧会であったと、支援者の一人としても思います。願わくはもみじ作業所から出品された作家たち含めアートを媒介としてまだまだ社会とのつながりを作り出せる可能性を持った方々が、これをきっかけとして少しでも「その先」を目指して過ごしていけるようになればと思わずにはいられません。

今回寄稿いただいた松浦さんをはじめ、展覧会に関わってこられた方々に大変感謝申し上げます。ありがとうございました。

池田佳恵さんの作品



板村英治さんの作品



本田美恵子さんの作品



上川恵莉菜さんの作品



研修報告

きょうされん実践交流会 研修報告

日時：2025年2月22日(土)

10:00～17:00

場所：夢トピア おりづる作業所 第三もみじ作業所



コロナ禍で6年ぶりの開催ということもあり、開始前から多くの参加者が夢トピアに詰めかけ、会場ではなかま、職員が「久しぶり」と挨拶を交わす場面が見られました。

午前の部は「きょうされんってなに？」をテーマに、もみじ福祉会の井上理事長、中野賢太氏（社会福祉法人福祉の郷 いろいろな作業所）、室宏幸氏（社会福祉法人たまご会 障害者活動センターたまご）の支部役員によるリレートークが展開されました。井上理事長よりきょうされん誕生の経緯ともみじ福祉会の歩みについてのお話がありました。その中でも、利用者部会を全国で最初に発足させたのが、ここ広島だということを知り、驚きを感じました。中野氏からは福祉の郷の活動の紹介がありました。室氏からはたまご会の成り立ちと近況とともに送迎加算の改定を例に国の障害者福祉に対する施策の傾向を示した上で、今後、福祉を取り巻く環境がより一層厳しくなることについて危機感を持って臨むべきではないかとの問いかけが印象に残りました。

午後の部に開催された6つの分科会のうち新人分科会に参加しました。各法人から入職3年未満の職員13名が集まり、3グループに分かれ事例検討を行いました。他法人の方と関わりを持つことが少ないため当初は緊張しましたが、グループでの事例検討を進めていくうちに徐々に忌憚なく意見を交わすことが出来ました。講師の方からは3つの事例が課題され、どの事例をとってみたいかなかま共通する部分を感じられ共感を持って取り組むことが出来ました。事例検討だけでなくフリートークの時間も設けられており情報交換のよい機会となりました。会の終盤に講師の方より「この仕事に悩みごとは尽きないけれど、仕事を楽しもう」とのメッセージが送られました。そのメッセージと新人分科会のテーマである「シリアスよりもユーモラスに」、分科会で学んだことを忘れずこれからの仕事に活かしていきたいと思っています。

報告者：第二もみじ作業所 宇佐美 和人

発達診断研修

日時：2025年2月15日(土)

8:30～17:00

場所：第一第二もみじ作業所



今年も“特定非営利活動法人まなびや”の葛城妙子さんによる発達診断と、その報告をもとにした職員研修が行われました。講義「なぜ発達を学ぶのか」では発達を学ぶ意味や仕組みについて話を聞き、主題となる事例検討では2名の職員からレポートが報告されました。もみじでは障害のある仲間（利用者）の生活の質の向上には職員の障害や発達についての専門性が必要であるという理念のもと、さまざまな講師の方と共に学んできました。葛城さんには2021年の研修からお世話になっています。

葛城さんの障がいのある方を見つめる視点や捉え方には、積み重ねて来られた実践や研鑽に基づく専門性と温かみのある人間性を感じられます。お話を聞いていると、日々のできごとに少々ささくれがちになっていた心も解きほぐされます。

正直、日頃から「発達年齢」「発達段階」といったことについて意識できているとは言えません。それどころか感情が先に立った対応になってしまうこともあります。でも「失敗したかもしれないけど、ここは前よりよかったよ」といった「中間の評価」の大切さ。気持ちの切り替えに必要な間を作る工夫、受け止めてもらえる安心感の中で生まれる自己肯定感など、仲間と関わる中で大切にできたことは「発達診断研修」の中で学んできました。最後になりますが、これまで繰り返し伝えられてきた「本人さんはどう思っているんやろ」（びわこ学園初代園長：岡崎氏）という言葉や言葉を大事な物差しとして心に持っておき、仲間の事をいろんな面から理解できるよう努めていきたいと思っています。

報告者：第三もみじ作業所 高美 直行

これからの楽しみづくり

ドリームハウス 飯田 健

2025年2月11日、ドリームハウスでは一年間の活動をみんなでスライドを見ながら振り返り会を行いました。事前に仲間、職員にどのレクリエーションが楽しかったか、これからどんな事をやってみたいか等のアンケートをとりました。

当日は、スライドを見ての感想や意見を言い、来年度やってみたい事を模造紙に貼って掲示し、その中から各仲間がやりたいレクリエーションを投票しました。仲間からは、「ボク、写真に写ってる」BBQおいしかった。「夢トピアの仲間とハロウィン楽しかった、またやりた



い。などの声もあり、一年間を振り返りみんな楽しんでいた様子でした。来年度は、アイスクリーム作りや書道なども新たにやってみたいという声がありました。ドリームハウスでは、何事も仲間には必ず意見を聞いてから行っていく事を大切に、レクリエーションをはじめ様々な事を行っています。やりたい事、食べたい物などあらゆる場面において、仲間の意思を尊重し、仲間自身を選び、自分たちの生活を自分たちで決めてやっています。これは開所当初から大切にしている事で、これからも大切にしていきたいと思っています。

vol. 10 いつ屋根の下で

もみじ福祉会にある5つのホーム。このコーナーでは仲間の日々の様子を紹介していきます。

m o m i j i



きゅうしょく ポークストロガノフ



仕上げに
★塩を混ぜた
ヨーグルト
★乾燥パセリ

【材料】（4人前）

- ・玉葱…250g（輪切り方向になるべく薄く切る）
- ・ケチャップ…大さじ6
- ・ウスターソース…大さじ2
- ・水…280cc
- ・豚肉…300g（しゃぶしゃぶ用）
- ・コンソメ…小さじ2半
- ・ヨーグルト…100g（一番最初にキッチンペーパーで水切りする）
- ・塩コショウ…適量
- ・砂糖…小さじ1
- ・バター…10gと15g（分けて使います）
- ・にんにく…1片
- ・薄力粉…大さじ2半
- ・黒コショウ…適量
- ・舞茸…100g（しめじくらいに切る）

※ご飯は一人前につき200g

【作り方】

バター15gで玉葱1個250gを炒め、塩コショウと薄力粉大さじ2半、まぶした豚肉300gを入れ炒め、舞茸100g、ケチャップ大さじ6、ウスターソース大さじ2を入れよく炒める

水280cc、コンソメ小さじ2半を入れ沸かし、ヨーグルト大さじ4、砂糖小さじ1、バター10g、おろしにんにく1片、黒胡椒を入れ混ぜ少し煮たら完成

ご飯にかけ、塩を混ぜたヨーグルトをかけ食べる



今回はパン販売に協力していただいている西川ゴム工業(株)さんの紹介をします。

こねこね工房

2024年8月より月2回、西区にある本社5階で出張販売させてもらっています。

いつも行列ができ、販売に行く仲間（説明担当とつり銭担当）も楽しみにしています。

恥ずかしがりの仲間もがんばって「ありがとうございました」と声をあげるようになりました。

いつも完売できるよう、窓口となっている人事の方が、通りすぎる社員さんに声をかけたり、館内放送で案内してくださっています。これからもよろしくお願いします。



輝け！ ニューフェイス



まつもと ゆうや
松本 優也さん

4月より夢トピアで勤務します松本優也です。介護歴12年です。今回初めて障害者施設で働きますが、わからないことは先輩職員に聞き学んでいきたいと思っています。日々明るく元気に仕事に携わってまいります。よろしくお願いします。



はしもと ともたか
橋本 朋恭さん

一月から第一、第二もみじ作業所を縫製グループで勤務している橋本です。福祉に携わる仕事は初めてで戸惑うことも多いですが、自分の学びを仲間との関わりの中に還元できるよう頑張りたいと思います。



はたした ひびき
畑下 飛美来さん

4月からドリームハウスで勤務することになりました畑下飛美来です。今年の3月に専門学校を卒業して初めての就職(新入社員)なので右も左もわからず不安でいっぱいですが、一つ一つ学んでいき仲間のみなさんに顔と名前をおぼえてもらえるよう頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いします。



せつやす しゅんじ
節安 俊司さん

4月より夢トピアで勤務します節安俊司です。以前は高齢者介護をしていました。障害者福祉ではほぼ素人同然の知識ではありますが、仲間や先輩方から多くを学んでいきたいと思っています。少しずつ仲間の顔と名前をおぼえて関わってまいります。よろしくお願いします。



みよし しんご
三吉 申悟さん

4月からハッピーホームで働かせていただく三吉申悟と申します。専門学校を卒業して新卒として入り緊張しています。学校に入る前、介護施設で働いた経験を生かせる場はないかと思い、もみじ福祉会を見つけました。不器用ですが、仕事への思いややる気、頑張りは誰にも負けないと思います。一日でも早く仕事を覚えて仲間との信頼関係を築いていけるように頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

がんばろうや100号に寄せて

もみじ福祉会機関紙「がんばろうや」は今号でめでたく100号を迎えました。記念すべきこの節目に、1994年4月の「がんばろうや」創刊号から2022年3月に退職するまでずっと「がんばろうや」編集に携わっていた中沢道成さん(前第二もみじ作業所所長)に、思いを寄せていただきました。



中沢 道成さん

〇こころとちよとエピソード…

#「がんばろうや」の命名は

これは、無認可時代、法人化運動を引っ張ってきた「ともだちコンサート」のオリジナル曲のひとつ「がんばろうや」から、「良い名前だ」と喜んでいただけたところ、後ほど大阪の某福祉会の理事長さんから「うちの広報紙名の盗作やんか」とケチが。もちろんそこは皆、笑って知らん顔。オーライ、オーライ。

#金がないぞ、節約！節約！

広報委員会を立ち上げ、当紙の編集方針や理念を決めてさあ作成開始！しかし、時はようやくクワープロからパソコンに移行する時代。現在のそのような便利なアプリもない。デザインを頼まず、拙い知識と技術を寄せ集めて割り付け用紙と格闘の日々。手作りの紙面づくりで確かに制作費は安くあがったけど、出来映えは？…何とも。

#火事にも負けなかった

2012年3月12日、思いもよらぬもみじ作業所の火災発生で法人

〇忘れなかった大切なこと

一般的に広報紙の役割はもちろんながら、「がんばろうや」は社会保障や福祉の動向・情勢をしつかり捉え、地域にその課題や問題を発信し続けることを大事にしてきました。微力ながらも、社会を動かし福祉を守る一つの武器としての役割を果たしてきたのではないかと自負しています。

人手不足をはじめ厳しい情勢が続きますが、これからも、もみじの実践、事業、運動が止まることなく、「がんばろうや」が150号200号と歴史をつなげて行ってくれることを心より願っています。

2025年3月 中沢 道成

行事日誌

- | | |
|-----|--|
| 12月 | 6日(金) きょうされんがんばるデー
9日(月) ~ 19日(木) MSH医療専門学校 保育実習
19日(木) クリスマス会(第一、第二もみじ)
21日(土) クリスマス会(第三もみじ)
24日(火) 市立特別支援学校販売 |
| 1月 | 12日(日) 中島地区とんどまつり
18日(土) ハラスメント防止研修
20日(月) 日本福祉大学 ソーシャルワーク実習I
24日(金) ~ 25日(土) きょうされん第28回経営管理者総合研修会
30日(木) 垂直避難訓練(第一、第二もみじ) |
| 2月 | 11日(火) 吉島町もちつき大会バザー
15日(土) 発達診断研修会
22日(土) きょうされん実践交流会 |
| 3月 | 5日(水) 矯正研修所見学来所(第一、第二もみじ)
10日(火) ~ 25日(火) 広島国際医療福祉専門学校 介護実習
17日(月) 第153回理事会
26日(水) 年度末評議員会
27日(木) クッキー型抜き体験(第三もみじ) |

もみじの文化財

vol. 1

【もみじ作業所だより第2号(1981年4月頃)】



※井上理事長私物

もみじ福祉会機関紙『がんばろうや』はこの度めでたく、第100号を迎えたが、これは、もみじ福祉会が法人化するもともと前、もみじ作業所がまだ無認可だった頃のガリ版新聞。おそらくは現存する最古のもみじ作業所のおたよりの類。作業所のこと、いろいろな人に知ってもらいたい！という熱がすごい。2025年のもみじ福祉会、あの頃のもみじ作業所に負けるわけにはいかない。



2025年度もみじ福祉会入職式

私の大切にしたいもの

第1回



社会福祉法人もみじ福祉会
理事長
井上 一成さん

「私の大切にしたいもの」の新しいコーナーの第1回を飾らせていただき光栄です。真面目に書いた方がいいのか楽しく書いた方がいいのか、少し悩みましたが、やはりもみじ福祉会の歴史の中で大切にしてきたものを書かせていただきます。それは「つながり」です。

今のもみじ福祉会があるのは、たくさんの方の「つながり」の中でいろいろな取り組みができたお陰だと思います。もみじだけでできることは一つもなかったように思います。土地確保に向けても、広島市に何度も要望を上げ、当初は相手にされず、利用者や親が一生懸命訴えてくれたことが励みになり、要望署名の取り組みを通じてたくさんの方の支援の力を得て広島市からの無償貸与を実現することができたと思います。また、その事が法人化を目指す次の小規模作業所にもつながる取り組みになったことをうれしく思っています。

す。建設資金作りでもたくさんの方のボランティアの皆さんのお陰で、街頭カンパ活動、ともだちコンサート、絵画展、カラオケ大会その他のいろいろな取り組みを行う事ができました。街頭カンパ活動では、学生や他の事業所の利用者と一緒に募金を訴えてくれました。チャリティー絵画展では浜崎前理事長の絵仲間の方たちのご協力をいただきました。ともだちコンサートでは、たくさんの方のうたごえサークルのみなさんが歌作りや企画へ参加して頂き、広島厚生年金会館、(現在の広島文化学園ホール)をいっぱいにするコンサートができました。このコンサートでできた80曲を超えるオリジナル曲は、もみじの大きな財産となっています。もみじで働いてきたからこそ経験できたこと、その「つながり」は、私の大切にしていきたいものです。

井上 一成

後援会会費納入者

(2024年11月1日～2025年2月28日)

個人会員

高田 郁子	新谷 昌由
寄本 克枝	前浜 佳代子
藤井 紀子	小西 正則

寄付一覧

(2024年11月1日～2025年2月28日)

ヤマトナデシコ(匿名) 4件
アルミ缶リサイクル協会
鶴田 恵美
吉島心身障がい者父母の会
安藤 京子
中村 靖雄
ノートルダム清心中・高校
池口
橋本 加津代
中村 昭
第三もみじ家族会
藤岡 享子
おひさまネット
広島グリーンヒル病院
小嶋 幸江
広島女学院メサイア委員会 (敬称略)

物品等寄付一覧

(2024年11月1日～2025年2月28日)

寄附物品 切手 荒巻 千鶴子

ご寄付ありがとうございました。

「社会福祉法人もみじ福祉会 障害者生活支援センターめーぶる」は、広島県共同募金様より「令和5年度NHK歳末たすけあい」の配分をいただき、車両をリースすることができました。

地域で生活する障害のある相談者宅への訪問などで、有効に使わせていただいております。

この度はご配分いただき、誠にありがとうございました。



訃報

去る2024年12月29日、第三もみじ作業所配食グループに所属し、グループホームきらきらで生活されていた上原三千代さんがお亡くなりになりました。享年40歳でした。謹んでご冥福をお祈りいたします。

